

2013年10月23日

## 杉本泰博先生を迎えて

中央大学 杉本泰博（すぎもと やすひろ）先生を迎えて第 233 回 群馬大学アナログ集積回路研究会を開催した。杉本先生は長年アナログ集積回路分野での日本の大学での重鎮として、研究、教育、学会活動をリードされてこられている。群馬大学にお招きしてご講演いただいたのは大変光栄である。

杉本先生はお人柄・人格が非常に素晴らしく、ご講演題目や概要からもそれがうかがえる。学外からも（遠い方は大阪から）何人もおいでいただいた。

題目：「電流モード DC-DC コンバータの設計効率を 1,000 倍増大する手法とその考え方」

講師：杉本泰博先生（中央大学）

日時：2013年10月22日（火） 15:15-16:45

概要：まず第1に、「電流モードですが、DC-DC コンバータ IC の回路を一度設計するだけで全ての応用に間に合うので、あとは遊んで暮らせる設計手法」をループの詳細設計を通して得た結論から紹介します。

第2に、「SPICE と同じ精度で、SPICE より 100 倍速く DC-DC コンバータの AC 特性や過渡応答をシミュレーションする」機能シミュレータ NSTVR のアルゴリズムと適用例について紹介します。

以上の2つの手法を用いれば、電流モード DC-DC コンバータ IC の回路を 5 分程度で設計出来るでしょう。

杉本先生のご講演を拝聴しながら、「不易流行」という言葉が思いだされた。

不易：本質的なことで、変えてはならないこと

流行：時代の要求に応じ、新しいことを取り入れていくこと

松尾芭蕉が好んで使った言葉とのことである。

回路設計技術のバックグラウンドを軸に、時代の要求に応えながら新しい研究を行っていく、研究者とは斯くありたいと思う。









(写真 石川信宣、文責：小林春夫 群馬大学)